

# NPO法人 Re~らぶの取り組み

～就労継続支援B型事業所の現場から～



理事長 : 東藤 れいこ

管理者  
支援コーディネーター : 管野 敦

1) 法人の紹介と活動

2) 支援方法

3) 事例をとおして

# 1) 法人の紹介と活動

# 法人を設立した理由

平成元年頃



交通事故による頭部外傷

**症状の多様性故に、当事者・家族は  
様々な問題を抱え孤立していた**

頭部にダメージを負い、救急医療の進歩により何とか命を取り留めたものの適切な治療を受け退院

在宅生活に戻ると、後遺症が様々な形で表れた為に、学校を辞めざるを得なかった。会社も辞めなければならない状態におかれた。

家族はこれまでの生活とは一変してしまい、戸惑うばかり。何をどうしたらいいのかわからず、精神的に疲れていた。



# マスコミ情報で知った高次脳機能障害

平成13年頃 TVで放映され、原因や症状が似ていたため・・・

## 家族が抱える課題

- ・高次脳機能障害に関する情報が乏しく、どこに相談したらいいのかわからない
- ・障害や症状、対応についてどこに尋ねればいいのか？
- ・行政機関等に聞いてもたらい回しにされる



## 当事者・家族との出会い

当事者・家族は後遺症に悩みながらわらにもすすがる思いで情報を得たいと思っていたなか、あることがきっかけで家族と出会う機会に恵まれた。

同じ悩み・苦しみを語り合う・・・、これが唯一の情報源でした。

**家族の願いを実現させたい**

# 家族の願いを実現させたい

平成13年 当事者・家族の願い

- ・家族 ……集う場所が欲しい
- ・当事者 ……日中、活動する場所が欲しい



場所探し開始

平成14年

活動の場

集う場

場所が見つかった



●準備委員会発足(当事者・家族、支援者)

●小規模作業所も同時開設準備

# 作業所での取り組み

何が出来るのか、何が出来ないのか試行錯誤の繰り返し

## 1) 通所により生活のリズムが整った

昼食作りを基本として、集団で役割分担して行い、難度の高い物に取り組む

## 2) 生活習慣を身につける

積み重ねにより、社会参加の意欲を持ち、当たり前前の生活を行う事によりきっかけを意図的に作っていく。

- ・落ち着いた環境を作る事
- ・本人のできる事を探す事
- ・今できる事を確実に行う事



問題解決の方法・対処技能の獲得



# 当事者・家族の変化

- 情報不足から社会的孤立しがちな現状から立ち直る事が出来た
- 当事者が外に出るきっかけにもなった
- 家族も自分の時間を持つことができた
- 他者との交流ができるようになった

環境調整できると、生活が大きく変化

家族の先輩としてアドバイス

客観的に障害を理解

家族が支援者として関わる





# NPO法人 Re~らぶのあゆみ

Re~らぶの由来:この身体を再び活かし、新たな自分を受け入れ  
スタートしよう、愛をこめて

平成13年10月 北海道高次脳機能障がい者を支援する会  
Re~らぶ準備委員会 作業所開設準備

14年3月 設立総会 小規模作業所設立

17年3月 NPO法人 Re~らぶを設立

18年4月 地域活動支援センターへ移行

20年4月 就労継続支援B型事業所として開所(定員20名)

21年4月 事業所を現在地に移転



平成18年、平成23年、25年～

北海道より高次脳機能障害者支援委託事業(授産事業所利用支援)を受託

# 事業所の概要

- 平成20年4月1日 就労継続支援B型事業所 指定開始
- 定員 20名
- 登録者数 26名(平成28年6月1日現在)  
1日当たり平均利用者数 約20名

※他に休職中の当事者2名がボランティアとして活動中

- 障害種別利用者数

身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳
0名	8名	2名	3名	13名

# 事業所 1日の流れ

10時 清掃・ミーティング  
作業

12時 昼食・休憩

13時 作業

(毎週水曜日絵本の読み語り)

16時 ミーティング・作業終了



# 主な作業内容

- 手作り石けん  
(ECO、ホエイ、ホエイラベンダー石けん等)
- 手作りお菓子(ごません、かりんとう等)
- 下請作業(会葬用品加工、袋詰め、箱詰め等)
- 施設外就労(廃油回収業務)
- 地域交流活動やバザー、イベント等での販売



# 相互理解を深めるために・・・

## 絵本の読み語り・毎週水曜日午後

- ・平成17年度から活動開始
- ・コミュニケーションが苦手 → 絵本を通しての会話づくり
- ・毎週1冊の絵本(紙芝居)を読む
- ・利用者が交代で進行役  
本の内容に関連した話題を他の参加者に質問
- ・質問に対してありのままを話す

### ルール

他人の発言した内容を  
否定しない



# 読み語りを始めた事で...

- ・過去の出来事を話し始めた
- ・相手の発言をしっかりと聞く
- ・現在の心境を語る事ができる

記録集が出版



## 2) 支援方法

# 支援方針

## ①基本姿勢

- ・障害は一人ひとりが違う
- ・その人のできることから取り組む

## ②目標

- ・一人ひとりが今できることを各自のペースで取り組む

**一人ひとりが個性  
その人が抱える背景に病気や障害**



# 支援を効果的に行うため・・・

支援の全員  
一致方式



支援者の情報共有・  
対応の統一化

医療機関や相談支援事業所等  
からの情報

- ・体調の利用者は
- ・気になる出来事は



- ・どのような支援をしたのか
- ・課題は何なのか

- ・家族や医療機関、  
相談支援事業所等から  
の情報は・・・

# 様々な支援事例に関わって...

## 支援の事例に医学的な解説と考察を加えた内容 看護専門誌「ベストナース」に連載



# ベストナース発行

(北海道医療新聞社)

平成27年4月号～28年3月号まで1年間連載

27年4月号	法人の紹介
5月号	記憶障害(その1)
6月号	遂行機能障害
7月号	感情のコントロール低下(その1)
8月号	失語症
9月号	病識欠如
10月号	記憶障害(その2)
11月号	生活能力の向上
12月号	対人関係、コミュニケーション能力の低下
28年1月号	注意障害
2月号	看護相談
3月号	感情のコントロール低下(その2)

### 3) 事例をとおして

# 事例 1

A氏 30代 男性

幼児期に脳炎後遺症による高次脳機能障害

- 症状
- ・感情のコントロール低下
  - ・易疲労性
  - ・記憶障害
  - ・体幹機能の障害(ふらつき)

- 経過
- ・学生時期から感情のコントロールするための治療を開始し、現在も治療中である

# 介入を必要とする課題

## #1 イラついた気持ちをどう対処したら良いかわからない

朝、事業所に来たAさんが不機嫌な表情でいる



本人に声をかける

起こった事柄を話してくれた



料金不足

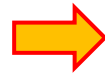


早く支払え!!



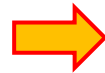
# 介入方法

・ミーティングで話し合う



イラついた感情を抱え込ませない  
安心感を与える  
気分を切り替える

・本人の気持ちを確認する



個人の尊重

・みんなに同様のエピソード  
を経験したことがあるか意  
見を求める



共感的理解  
共同解決

**要望書を提出**

# 介入結果

会社側との話し合いができた

- ・会社側の意向
- ・バス利用のマナーについて



**理解を示す**

得られた結果

- ・社会参加する上でのコミュニケーションが重要
- ・内容の伝え方は十分に検討したうえで伝える事



# 事例 2

B氏 60代 男性

脳梗塞を発症 後遺症による高次脳機能障害

- 症状
- ・感情のコントロール低下
  - ・記憶障害
  - ・注意障害
  - ・遂行機能障害
  - ・左上下肢の身体障害

- 経過
- ・脳梗塞発症後復職したが、1年で退職
  - ・その2年後に高次脳機能障害の診断評価を受ける

# 介入を必要とする課題

## #1 突然、怒り出す

生活上必要な行政手続きで・・・

障害者手帳の更新申請



却下



職員に不満をぶつける

# 介入方法

① 問い合わせを一緒に行う



怒りの原因を把握

② 手続き上必要な内容の確認



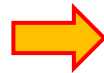
必要事項の確認と準備

③ 手続きに同行する



安心感を与える

④ 制度に関する説明



制度の理解促進

# 介入結果

## 得られた結果

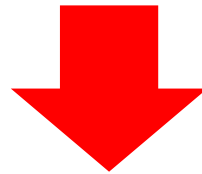
- ・制度上必要な書類は必ず確認してくれる
- ・必要書類は1年間保存するようになった
- ・当事者・家族の不安感の軽減
- ・信頼関係の強化

## 課題

- ・一人で役所手続してもよい内容なのかどうか確認
- ・役所で急に怒鳴り散らさないよう事前に声掛け

# 連載をとおして

医療職と福祉職が協力し合い、  
当事者の事例（症状）に対応した



医療と地域（福祉）の連携の重要性を再認識

当事者・家族を支援する上での両輪